

平成8年3月14日

豊島区ゆかりの文化人とその小伝

『群像 豊島の文化人《続》』刊行

平成4年7月に豊島区制施行60周年を記念し発刊された、同区にゆかりの文化人の足跡をたどる『群像 豊島の文化人（前編）』の続編として『群像 豊島の文化人《続》』がこのほど発刊された。収録されているのは、文学史上に異彩を放つ文士、夏目漱石、野上弥生子、林芙美子、水上勉らをはじめ、詩歌を大衆のものにした詩人、北原白秋、野口雨情、自由と自立の教育を実践した巖本善治、羽仁もと子、夢と創造に生きた高村智恵子、手塚治虫ら豊島区に住んだ文化人30人。

B6判タテ組み、541頁、上製本（ケース付）、定価3500円（税込）。池袋の西武百貨店書籍売場、芳林堂書店などで発売中。発行は池袋のタウン誌『びい〜ゆ』を発行しているサンライズ社（池袋2-18）。著者は、同社の高瀬西汎（たかせ せい はん）さん（60歳）。

高瀬さんは、1982年に『びい〜ゆ』を創刊。以来、日に日に変化する池袋の街を見続けながら「豊島の文化とは何だろう？」と考える中で、文壇の大御所・菊池寛や、探偵小説界の大御所・江戸川乱歩などの傑出した文化人らが住んでいたことに注目し、『びい〜ゆ』89年1月号から自分で調べた著名人の小伝『池袋に住んだ著名人』の連載を始めた。

当初は数人の文化人を紹介して連載を終えるつもりだったが、読者からの反響が大きくなり、高瀬さん自身もさらなる好奇心にかられ、いつの間にか長期の連載となった。

『びい〜ゆ』創刊10周年にあたる平成4年、高瀬さんは、それまで連載してきたものを一冊の書籍にまとめることを計画、この連載に大きな関心を示していた豊島区の後援を得て、刊行となった。豊島区制施行60周年にちなみ、収録する文化人は前・後編各30人の合計60人。『びい〜ゆ』紙上での連載が平成7年2月号をもって60人に達したので前編に続きこの度の刊行となった。

詳細 高瀬 西汎さん